「当時の思い出の一端」（抜粋・編集）　第７代校長　弦巻千代三

戦争中の鉱山軌道と物資拠出の思い出

（注：昭和16年４月１日　手師学国民学校に改称
昭和17年４月１日　字名の改称により、日吉国民学校に改称
弦巻千代三　昭和17年４月25日～昭和19年７月27日）

（略）事変当時で鉄の必要があって，川向こうには小規模な針田鉱山があり、下には奥村鉱山があり、露天掘りでした。
一時は常呂まで軌道を敷設して、（略）盛大に開通式を挙げ、今まで車、トラックを利用して搬出していたのを、今度は軌道によりどんどん輸送すると状態で、なかなかの盛況ぶりでした。

（注：昭和18年10月９日　常呂～太茶苗間の奥村常呂鉱山軌道開通式挙行「当直日誌」
「本日正午より奥村常呂鉱山の軌道開通式。校長が招待を受け参列。午後５時より日吉小学校で祝賀会余興開催、満員盛況　「日吉小学校沿革史」）

（略）事変のため、軍部ではいよいよ物資の欠乏に困ったとみえ、火鉢だ、花瓶だ、仏具類までほとんど強制的に拠出させられたものです。また、繊維にも困ったとみえて、河原や道路ふち、畑や田のふちのイラクサを刈り集めて拠出したものです。衣類からゴム靴にいたるまで物資は配給制で、学校ではそれを児童に配給するのになかなか困ったものであります。（略）

『日吉小学校60周年・日吉中学校20周年記念誌』（昭和42年11月発行）掲載